

# わが

## 若者が活躍する地域社会の実現に向けて 共創で育むまちづくり

須賀川市は、福島県の中央部に位置し、豊かな自然と都市機能が調和するまちです。東北縦貫自動車道、国道4号、東北本線、東北新幹線、水郡線、そして県内唯一の空の玄関口である「福島空港」を有し、高速交通体系に恵まれています。この利便性が、人・モノ・情報の交流を活発にし、「臨空都市」として成長を遂げてきました。



イベントでにぎわう市西部に位置する藤沼湖

本市では、「松明あかし」や「きり天王祭」といった伝統行事や江戸時代から現代に続く俳句文化などを生かしたまちづくりを進めています。そして、本市出身で「特撮の神様」と称される円谷英二監督が築き上げた「特撮」文化の継承は、まちづくりにおける重要な柱の一つであり、

円谷英二監督の精神を受け継ぎながら、「特撮」や「ウルトラマン」などを生かした、地域活性化や交流の推進を図っています。

### 「特撮」を通じた、新しい学びのかたち

「特撮」を未来へ継承する取り組みの中核施設は「須賀川特撮アカイブセンター」です。

令和4年度からは、市内の中高生を対象とした実践的な学びの場

「すかがわ特撮塾（以下「特撮塾」）」を開催しています。特撮塾は、映画撮影の現場で活躍するプロスタッフの指導の下、生徒たちが協力して特撮短編映画を制作するワークショップです。映画づくりを通じ、「モ



特撮塾での撮影の様子

ノづくり」の面白さや、協働して物事を達成する楽しさを感じてもらうことで、学校とは異なるかたちでの学びを提供しています。

特撮塾では、映画が完成するまでの工程を体験することができ、特撮技術の継承の場としても機能しています。また、生徒のアイデアがストーリーや怪獣デザインに取り入れられたり、撮影で市内施設を活用したりすることで、完成した映画は市民にも親しまれ、特撮文化の醸成につながっています。

これらの経験をきっかけに、芸術・クリエイター系の進路を選択する生徒も現れました。また、経験者が新規参加者をサポートす



特撮塾での撮影に挑む生徒たち

るなど、学年や学校の垣根を越えて刺激し合うことができるコミュニティが「特撮」を通じて形成されています。

### 中学生×アートでまちづくりを考える

本市では、変化の激しい時代において、市民が誇りを持てるまちを目指し、次代を担う中高生世代の声を市政に生かすべく、新たな取り組みとして「ティーンズ会議」を始動しました。本事業は、グループワークや視



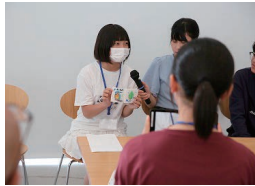
路地などにさまざまな店舗が並ぶRojima



市役所の駐車場にも店舗が並ぶRojima

と実感できる社会の構築こそが、持続可能な地域

心を持つきっかけとなつて



ティーンズ会議での発表の様子

ティーンズ会議でアイデアを表現する生徒



察研修を通じ、生徒が本市の未来を「自分ごと」と捉え、その声を市政へ届ける「対話」と「学び」の機会を創出するものです。初年度の令和7年度は、東京藝術大学との連携により、中学生が日常で抱く課題を「アートな視点」で再解釈するワークショップを開催し、アイデアを本やポスターで自由に表現しました。これにより、生徒たちがまちづくりの主體的に参加する確かな第一歩となりました。

若者の声を市政へ反映させるには、継続的な対話が不可欠です。本市は今後も本事業を継続し、若者が主役となる舞台をさらに広げていきます。

若者の感性と行政の実行力が掛け合わされることで、まちの豊かさに深みが増します。若者が「自分たちの声でまちは変えられる」と

## 若者の力で まちを元気に

づくり、そして未来のまちづくりの本質であると信じています。

東日本震災で一時的に失った中心市街地の再生は、本市の大きな課題でした。その活力を回復するため、平成27年6月に市職員の有志によって、地元の飲食店などを集めたマルシェ「Rojima（ロジマ）」が始まりました。

25店舗で始まった小さなマーケットは、今では開催100回を数え、最大180店舗が集まるまでに成長しています。

現在、Rojimaは、一般社団法人ロジカラによって運営され、補助金に頼らず出店料で賄う自立したモデルを確立しています。

に加え、地域の大学生や高校生といった若年層がボランティアスタッフとして携わっています。これにより、Rojimaは若い世代が地域とつながり、まちへの関心を持つきっかけとなつて



tette内のチャレンジショップ

います。出店から、創業につながったケースもあり、これまで約10店舗が創業しています。

本市では、さらなる創業機運醸成のため、市民交流センターtette内（テッテ）内に「チャレンジショップ」を設け、中心市街地の事業開始をサポートし、これまで

## 結びに

に5店舗が出店するなど、新たな挑戦者たちを後押ししています。

本市は、若者の可能性を信じ、行政、地域団体、大学、そして市民一人一人と「共創」することで、若者が活躍する地域社会の実現を目指しています。これからも、さまざまな主体との連携を深め、未来を見据えた魅力あるまちづくりを進めてまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 279・43km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 7万869人
- ◆ 世帯数 2万8261世帯

〔将来都市像〕 共につくる 住み続けたいまち すかがわ

〔まちの特徴〕 豊かな自然と穏やかな気候に恵まれたまち

〔市町村合併〕 平成17年4月1日、須賀川市、長沼町、岩瀬村の3市町村が合併



須賀川市長  
大寺正晃



〔特産品〕 きゅうり、ナシ、モモなど

〔観光〕 国指定名勝須賀川牡丹園、須賀川特撮アーカイブセンター、藤沼湖自然公園など

〔イベント〕 松明あかし、きゅうり天王祭、円谷幸吉メモリアルマラソンなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 千年の歴史を感じ 未来を照らすまちへ

### はじめに

八幡市は、京都府の南西部、木津川・宇治川・桂川の3川が合流して淀川となる地点に位置し、大阪府境に接しています。京都市、大阪市という二大都市の中間にあり、交通至便な立地条件を有しており、面積は24・35km<sup>2</sup>、最大幅は東

西約6・7km、南北約8・5kmで京都市・久御山町・京田辺市の区域内に飛び地を有しています。西部の男山から南部の美濃山地域にかけては、なだらかに起伏した丘陵地で、その他の地域は、おおむね平地で形成されています。平地部には、1級河川の大谷川、防賀川が流れ、また、中央部から東部にかけては、

や日本最大級の本橋で映画などの撮影にしばしば利用される「流れ橋」、日本で初めて動力飛行機を飛ばした二宮忠八翁が創建した「飛行神社」などがあります。また、発明王エジソンが白熱電球のフィラメントに使用した「八幡の竹」が有名です。

### 「住まう先」「訪れる先」「働く先」として選ばれ続ける多機能都市へ

本市は「住まう先」「訪れる先」「働く先」として選ばれ続けるまちを目指しています。まず「住まう先」として、子ども医療費の無償化拡充や学校給食費の段階的無償化、GIGAスクール構想の推進

ることで、「八幡で子育てをした」と思っていただけ「まちなちづくりを進めています。その中で令和7年度から始めたのが、「おむつ無料おてがる通園」です。これは、保育現場からの意見を基に始めた施策で、これまでの「保護者がおむつを保育園に持っていかないといけない」をなくし、おむつを保育現場で発注し、業者一括納入にすることで保護者は「手ぶら」で子どもの送り迎えができるというものです。これにより保護者の体力的な負担や精神的な大変さ、孤独感を緩和し、保育現場も個々の在庫を管理するという負担がなくなるため、お互いの手間を減らすことにつながっています。今や女性も約8割の方が働く社会の中で、子育てにおいて「みんなの手間をなくすための制度」を設計し、子育て環境を整備しています。

など教育環境の整備にも力を入れており、妊娠・出産から子育てまで切れ目のないサポート体制を整え

次に「訪れる先」として、本市には全国に誇れる観光資源がたくさんあります。国宝・石清水八幡宮や松花堂庭園、三川合流地域の豊か



背割堤の桜



やわた太鼓まつり

田園が広がっており、年間を通じて比較的温暖な気候に恵まれています。3川が合流する自然をはじめ、本社10棟が国宝に指定された「石清水八幡宮」、江戸時代初期に寛永の三筆として名をかせた松花堂昭乗ゆかりの「松花堂庭園」



地域ブランド「ヤワタカラ」

な自然、八幡茶の文化など、他の地域にはない固有の魅力が詰まっています。また、市内の特産品を地域ブランド「ヤワタカラ」として認定し、専用HPへの掲載

や市内外のイベントで展示、販売するなど市の魅力発信やPRに取り組んでおり、市内事業者の知名度などの向上を通じて地域経済の活性化にも寄与しています。これらの魅力を市内外に発信していくとともに、本市の玄関口である石清水八幡宮駅周辺の整備を進め、訪れた方が本市での滞在を楽しんでいただけのような動線の再構築と仕組みづくりを進めています。最後に「働く先」としては、現在、本市内において新名神高速道路の全線開通を控えております。それにより、交通の要衝として企業からの注目度も上がっており、物流産業拠点などの整備を進めていくことで市内での雇用創出につながるよう環境整備を進めております。また、農業の担い手育成や農

地の利活用も進めており、それらも本市の「働く場」を支える重要な柱となっています。今後ますます職住近接が実現すれば、若い世代が本市に住み、働き、子育てをするという好循環も生まれます。これらさまざまな施策により、「選ばれ続ける多機能都市」の実現に向け、取り組みを進めていきたいと考えています。

### まちかどタウンミーティング

本市では、市長自らが市民に対し市の施策を説明する機会を設けるとともに、市民の声を直接聞くことよって、市政の推進を図ることを目的とする「まちかどタウンミーティング」を令和6年度より実施しております。この事業の実施により、市として行っている取り組みをお伝えした上で、市民の皆さんから建設的なまちづくりへの意見を頂く双方向の対話の場をつくることができました。初めは小規模で実施し、参加人数も20人程度に絞らせていただきました。そして各回で「公共交通」や「まちづくり」など、テーマを決めて行うことで毎回非常に貴重な意見を頂ける重要な取り組みとなり

ました。市民の皆さんは市長と直接話せる場ができたことをとても喜んでくださっています。そして、回を重ねるごとに本事業に対する関心も高まったため、令和7年度はショッピングモールのフリースペースを活用させていただき、80人規模のタウンミーティングを開催しました。多くの市民の皆さんと市の未来について意見交換ができるこの取り組みは今後も引き続き継続していきたいと思えます。



川田市長とまちかどタウンミーティング

### プロフィール

- ◆ 面積 24・35 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万7918人
- ◆ 世帯数 3万4493世帯

〔将来都市像〕みんなで創って好きになる、健やかで心豊かに暮らせるまち  
〜住んでよし、訪れてよし Smart Wellness City, Smart Welcoming City Yawata〜

〔まちの特徴〕京都、大阪、奈良の中心に位置する近郊都市で、近畿の交通結



八幡市長  
川田翔子



節点として発展する多文化共生のまち  
〔特産品〕宇治茶、九条ねぎ、タケノコ、お米、イチゴなど  
〔観光〕石清水八幡宮、飛行神社、上津屋橋（流れ橋）、松花堂庭園・美術館など  
〔イベント〕やわた太鼓まつり、京都やわた背割堤さくらまつり、八幡市民文化祭、八幡市民マラソン大会など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。